

(様式2)

## 学校関係者評価報告書

上浮穴高等学校

評価実施日			
委員	氏名	所属等	備考
	正岡 健司	(一社)久万高原町観光協会事務局長(学校評議員)	
	大野 盛隆	久万広域森林組合 代表理事組合長(学校評議員)	
	白川 真理	久万こども園 園長(学校評議員)	
	大西 洋三	久万高原町教育委員会 事務局長(学校評議員)	
	高山 哲也	久万高原町商工会 会長(学校評議員)	
	菊地 孝昌	久万高原町教育委員会 学校教育指導員	
	伊藤 孝平	三愛スポーツ 代表	
	重藤 博文	高齢者総合福祉施設 久万の里 施設長	
評価・提言等		提言等に対する改善方策等	
・地域と一体化した取組がすばらしい。地域の特性を生かした取組ができている。卒業した子どもたちが最終的に地元に残ってくれるといい。		・地元愛あふれ、将来地元を背負って立つ人材を育成したい。	
・寮の定員が生徒募集の足枷になっていることは認識している。この課題を解消すべく町の方も取り組んでいきたい。		・よろしくお願ひします。	
・町にある二つの中学校のうち、小規模な美川中学との交流も是非行っていただきたい。		・本校でも是非交流したいと考えています。地元の生徒へ直接本校のアピールができるのはありがたい。	
・今年度始めた公営塾は来年度も継続し、小・中学校との連携もできないだろうか。高校生が小学生・中学生を教えるといったイメージで。		・人数も少なく軌道に乗るのに苦勞している公営塾だが、学校と町教育委員会が相談しながら、この町に合った形の町営塾を模索していけばいいと考える。	
・今のところ入学生が31人を切るような事態になっていないので、町民に廃校の危機感が薄れているように思われる。地元の中学生にもアピールしながら、地元率50%はキープしてもらいたい。		・地元の生徒に多く来てもらいたいと我々も考えているが、地元の子どもの数も減っている。いろいろなところにアピールしていきたい。	
・地元の保護者に対する説明会を、夕方や夜に行えば多く人が集まるのではないか。勤務時間の関係もあると思うが。		・検討させていただきます。	
・部活動の地域移行は高校ではどうなっているのか。		・高校の部活動改革は県の保健体育課が音頭を取り、小規模校ではいち早く「魅Can部」で高校をPRする部活動を設定したり、部活動支援員・外部指導者を増員している。久万高原町の立地条件から、連携としては中学校との連携を進めたい意向はある。来年度は学校をPRする新たな部活動の新設も考えている。	
・町内への就職が少ない。		・町から多くのバックアップをいただいているので、その恩返しとして将来町で働く生徒も育てたい。	
・今年度からInstagramを始めたということだが、これからはSNSをうまく活用しなければいけない。		・今後もSNSの効果的な活用を進めていく。	